

# ACT NEWS

エー・シー・ティー ニュース

こんにちは！ACTニュース編集部です。今年度は暑くて暑くてたまらない日も、氷点下の寒い日もあった一方で、社会もかつての日常へと戻っていく流れにあり、心身ともに疲れちゃうことが多い年だったと思います。このACT NEWSは、湯河原町の小学校・中学校で実施されているACT（アート・コミュニケーション・トレーニング）という活動を保護者の方や町の方にも知ってもらうための新聞です。それでは中学校での9月から2月までのACTを振り返っていきましょう！

ACT NEWS 第14号 2024年3月発行 発行元：湯河原町教育委員会・特定非営利活動法人 まなびとくらし

## ACTってなーに？

アメリカの哲学者であり、教育学者でもあるジョン・デューイは「人間は経験を通じて学ぶ」という経験主義の考え方を提唱しました。

彼は「個人が経験を通じて学ぶことができるのは、その経験が個人にとって意味のあるものである場合に限られる」と考えました。つまり、人間は経験を通じて自分自身を成長させることができ、その成長は意味のある経験を通じて生まれるということです。

ACT（アート・コミュニケーション・トレーニング）も同様に、生徒一人ひとりが自らの体験を通じて学ぶことを目的としています。自分自身を表現することを通じて、自分や他人との関係性を深めたり、違いを尊重し合えたりすることができる場です。

また、具体的な創作活動を通じて、生徒一人ひとりが自分自身の内面を見つめ直し、その結果、自分自身を深く理解し、自分と他人との関係性を改善していくためのヒントにあふれています。

現代社会において、コミュニケーション能力は家庭や地域、学校などさまざまな場面で必要とされる重要なスキルの1つです。これは人間関係を円滑にするだけでなく、自己理解にも必要不可欠と言えるでしょう。

ACTを通じて、生徒は自己理解や他者理解を深め、コミュニケーションの方法を身につけ、より豊かな人間関係や生き方を実現できる礎を育てることができます。座学では得られないことを、実際の体験を通じて学ぶことができます。

ACTでは創作やロールプレイ、グループワーク、ペアワークなどを通じて、コミュニケーションについてアートフルに学ぶことができます。また、振り返りの時間を設けており、生徒が感想を書くことで、より深い学びを得ることができます。

私たちはアートコミュニケーション教育を通じて、子どもたちがより豊かな人間関係や生き方を実現できることを目指しています。

## 「とぶからだ」



2023年9月26日(火)に8組のみなさんと。

8組の2回目は造形ワーク。台風の影響で2週間ちょっと待ってもらっての実施でした。

実際にトランポリンでふわっと浮き上がる感覚を自分の身体で感じた後、クリームみたいに柔らかな紙粘土を使って、立体造形にチャレンジしました。試行錯誤（トライ・アンド・エラー）をくり返す創作を真剣に楽しんでいるよ

うでした。ある生徒に聞いてみると「むずかしかった」という声。ということかという、柔らか紙粘土であるが故に「何度でもやり直せる」のですが、それは「何度でもやり直せちゃうから」ということなのです。

作品づくりとは決めること。自分で「これでOK!」と思えるところに至るって、なかなか大変なんです。

どんな形にでもできるという自由さは、どんな形で終わるかを決めるということ。つまり、自分次第。生徒たちはあれこれ迷いながら、最後に色付きガーゼでドレスアップさせ、自分の作品にOKを出せるところに辿り着きました。

最後にいつもの鑑賞会。展示された作品たちの周りにみんなで集まります。浮いているからだ、飛んでいるからだ、跳ねているようなからだ。それぞれの作品のこだわりを聞きながら、制作過程を含めたすてきなところをみんなで共有しました。

## 「からだから感じる」

2年生2回目は身体（からだ）をめぐるアクティビティ。「ふれる」をテーマに今年もダンサーの上村なおかさんと行いました。昨年は11月の実施でだいぶ寒かったので、今年は中学校の配慮で10月に行いました。ここでは全身を使って接触する感覚を確かめるように進んでいきます。

私たちは普段、自分の意思で身体を動かしていること、全身で感じながら過ごしていることを忘れて生活しています。しかし、今回のACTではそれを再確認するワークを意識的に行なって、触れてみたりしながら、思い出してみます。それによって「わたし」や「あなた」という個々の存在。そして「わたしとあなた」という関係性が再発見され、「わたしたち」の身体が離れたその時に、なんとも不思議な「切なさ」を感じてもらいました。

生徒たちの感想には「普段は言葉から、会話から感じる人が多いけど、身体で感じ取るの



2023年10月18日(水)に2年生のみなさんと。

もいいなと思った」「目を瞑ってペアとくっついた時に心臓の音や息の音などがたくさん聞こえて面白かった」「身体をくっつけた時は温かさを感じていたけれど、離れた瞬間に寒くなって寂しさを感じた」「自分的には『ひとり』になった時に苦痛はなかったので、一人の時間も大切だなと感じた」などが書かれていました。

## 「ふちどって！」



2023年12月1日(金)に1年生のみなさんと。

1年生の2回目はひとりで黙々と作業を進めるソロワーク。内容はタイトルの通り、ある図形をオイルパステルでひたすらふちどっていただけなのですが、けっこう疲れます。最後は、全員の作品を黒板に並べて鑑賞。同じ形をただふちどるだけの作業なのに、仕上がったものはてんでバラバラ。

その同じような絵は1つもない、バラバラ具合を視覚的に体感してもらいました。

ACTを通じていつも伝えているのは「個性を尊重する」です。「個性というのは一人ひとりの『違い』そのもの。黒板を見てわかるように、どれが上手いとか下手とかはありません。ただ違うというだけ。その『違い=個性』は本人を活かす時もあるけど、時には本人を苦しめることだってあるのです。本人が望もうが望ままいがあるのが『個性』。だからこそ、自分や他人の『個性』を丁寧に、大切に扱う必要があるのです」という話をします。

生徒たちからは「今の大人って、多様性の時代だとか、うちは個性を大切にしろとか言うけれど、いざという時に『どうでもいい』って変換されてしまうのは違うと思う」「その人らしさや意外なところも見れてよかった」「みんな色も違うし、やり方も違った」などなど。

## 「仮説と仮設～ペーパータワーをたてよう」

2年生最後のアクティビティは、毎年恒例の「ペーパータワー」です。グループごとに決められた枚数のA4コピー用紙だけを使って構造物を作って、その高さを競います。折ったり切ったりするのはもちろんOKですが、あくまで紙のみで建設します。目標は190cm！こうすれば立つんじゃないか？と仮説を立て、仮設し、崩れたらまた仮説…仮設…とカセツをひたすら繰り返すトライ・アンド・エラー（とりあえずやってみて、ダメならまた考えてやりなおそう）の時間です。



2024年2月2日(金)に2年生のみなさんと。

先生たちとの共有の場では、普段はあまり意見を言わない生徒が場をしきる姿があったり、最初はいまいち気が乗らない様子だった生徒もタワーが高くなってくるとどんどん顔が明るくなっていった話など、小さなドラマを発見したようでした。ACTの時間が新しい自分を見つけたり、自分の気持ちに気づくきっかけになると良いと思います。

生徒たちからは「友達と一緒に考えを生み出すことで問題を解決することができて、その大切さが分かった」「以前のマシュマロ・チャレンジの時にはできなかった、みんなで意見を出し合って、やってみて、失敗したら原因を考えて再挑戦するを繰り返すことができてよかった」など、協働の楽しさを感じたようでした。

## 「対話ってなんだろう」



2024年2月9日(金)に1年生のみなさんと。

1年生3回目は、2人1組になってロールプレイで対話をします。まず、AさんとBさん、それぞれの役割を伝えますが、お互いに相手の役割は知らされずに対話が始まります。

1つめのワークでは、「相手の話を奪う／自分の話を奪われる」という場面を意図的につくります。

2つめのワークでは立場を逆転。話し手は「話を聴いて欲しいだけ」かも知れないのに、聴き手がアドバイスをしてしまう場面を意図的につくります。

最後に「対話という場面では話す側の伝え方以上に、聴く側の姿勢や態度、つまり『在り方』によって、その場の価値や意味が決まるんだよ」という話をしました。

生徒たちの感想には「楽しくできたけど、実際に真面目に話を聴いてもらいたい人にこういうことをやると傷つけてしまうことが分かった」「自分が話している時に遮られて、え？って思ったけど、相手の『今はこの話をしたいんだよ！』みたいな圧が伝わってきて、自然に自分の話が止まってしまったので、気をつけたい」「気まずい感じだったから難しかった」「今日はいきなり割り込まれて面白かったけど、実際には聴く側が大切だと思った」などなど。

## 「楽しい熱帯魚」

8組の1年の締めくくりは毎年ダンボールハウス miniなのですが、ちょっと訳がありまして、内容を変更。「たのしい熱帯魚」を作ることになりました。

素材はキラキラ紙、布、スパンコール、ボタン、リボン、ポンポンなど様々用意したのですが、大人の発想を超えた素材の使い方に惚れ惚れ！見ているだけで本当におもしろかったです。

8組のACTでは、最初に完成品の見本を見せることが多いのですが、このワークでは、それはなし。講師が作り方だけを見せることで、シンプルに工程を理解し、完成形にとらわれずに取り組めていました。

最初は熱帯魚の絵をなかなか描けずに戸惑ってしまう生徒もいましたが、次の貼っていく作業に入ると「自分の選んだ素材を貼って楽しい」という風に気持ちを切り替えられていて、みんなの成長を感じました。



2024年2月16日(金)に8組のみなさんと。

最後はその向こうに海が広がる窓に展示して、みんなの湯河原水族館を鑑賞しました。個性豊かなたくさんの熱帯魚を鑑賞しながら、完成までのがんばりポイントや作品のステキなところをみんなで共有しました。

来年はダンボールハウス miniをするからね！

それではまた次号でお会いしましょう！